

1-2 野添 洋子

『 民族楽器「アンクルン」を通して、「インドネシア」を感じよう 』 ～ 音楽は万国共通の言葉と実感しよう～

学校名・名前 : 兵庫県川西市立陽明小学校 ・ 野添 洋子
 実践教科 : 音楽
 指導時数 : 10時間
 対象学年 : 小学校2年生～6年生 及び 音楽クラブ 対象人数 : 300人
 その他報告 : 川西市・猪名川町・音楽幹事会の教員 及び
 インドネシア同好会のメンバー ・ 音楽仲間 対象人数 : 50人

1. カリキュラム

(1) 実践の目的

「世界の音楽」を知る上で、教師が海外研修に行ってきたインドネシアを身近に感じ学習する。
 「音楽は万国共通の言葉」だと実感した経験を基に、インドネシアでの体験を共有する。
 インドネシアの民族楽器「アンクルン」を使って、心地よい音を楽しみ、実際に演奏することによって「音楽の楽しさ」「一緒に奏でる喜び」「うまく心が一つになったときの感動」を体験させる。
 多くの人に「インドネシア」のことを知って貰うことにより、開発途上国の現状を学び、「JICA」の存在を伝え国際協力のあり方や重要性について考えるきっかけ作りとする。
 「アンクルン」を校内・市内と広めていき、生きた国際理解教育・開発教育を実践して行く。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目(海外研修以前) 「インドネシア」についてイメージを膨らませる。	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲を演奏する。 「日本の音楽」「世界の音楽」を伝える。 夏休みにインドネシアに行くことを伝える。 インドネシアに対するアンケートを実施 各クラスの「児童の心の中」を知る 2学期に学ぶことへの期待を膨らませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲 各国のCD 教科書(世界地図) アンケート用紙
2時限目 インドネシアを知る	<ul style="list-style-type: none"> インドネシアの曲を合唱する。 インドネシアの地理的概要説明。 インドネシアの国旗を紹介。 地震で被害を受けたことも伝える。 インドネシアでの写真を見ながら説明。 インドネシアの土産を披露。 インドネシアの紙幣・金貨を見せて比較。 ピアノで曲を弾いて題名を当てる。 題名と昆虫の名前が一致するゲーム等。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲 世界地図 インドネシア地図 教材プリント(ワークシート) インドネシアの国旗 昆虫キーホルダー ジルバブ パティックの洋服 太鼓・小物楽器・他
3時限目 インドネシアを知る(パソコンルームにて)	<ul style="list-style-type: none"> 写真のパワーポイントを見せながら説明。 訪問地の小学校・中学校での交流を知る。 特に「音楽」の授業なので、交流を中心に話す。 	<ul style="list-style-type: none"> インドネシアで撮影してきた写真でのパワーポイント (BGMとしてアンクルンの合奏曲を流す)

<p>4～5時限目 インドネシアを知る ～ 音楽室で歌唱・器楽を前半・後半に紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や土産品を見せながら、現地の様子などを説明し、体験したことを共有する。 ・ バティックの洋服・作成方法を伝える。 ・ ストリートチルドレンについて話す。 ・ 再生紙を使った写真立てやバッグの紹介。 ・ 世界遺産の紹介。 ・ ハラルマークをお菓子から探す。 ・ お土産の紹介 ・ 「JICA」を紹介し国際協力の尊さを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バティックの洋服・布 ・ ジルバブ ・ お土産の影絵の人形 ・ 扇子・ポーチ・口紅入れ・財布・仮面・水牛の角で出来た食器等 ・ インドネシアの土産 ・ マッサージ棒・再生紙 ・ バッグ・写真立て ・ ハラルマークの付いたお菓子 ・ インドネシアと、日本の両国にあるお菓子 ・ 包装紙 ・ ワークシート
<p>6時限目 インドネシアを楽器で知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアの曲が入ったCDを鑑賞。 ・ アンクルンの材料・つくり・音のなぞ・演奏法・楽譜の読み方 等、特徴を理解する。 ・ 実際にアンクルンを手に持って順に音を出し、今までに触ったことのない楽器を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアのCD ・ アンクルン ・ 小物楽器 ・ 数字譜 ・ 子どもの楽譜 ・ バイオリン楽譜 ・ ドラム楽譜 等 ・ 現地で購入した音楽
<p>7時限目 インドネシアの民族楽器「アンクルン」の音を楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業に積み重ねてアンクルンの演奏を充実させる。 ・ 「キラキラ星」を演奏する。(クラス全体で) ・ 「数字譜」に慣れ親しむ。 ・ 実際に演奏を体験し音楽の楽しさを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜 ・ 写真 ・ アンクルン ・ 現地で撮影した写真を見ながら雰囲気を感じる
<p>8時限目(4年生) アンクルンを使って、曲を演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアの有名な曲を鑑賞させて、曲作りや演奏の美しさを実感させる。 ・ 「ほたるこい」等日本の曲をアンクルンで練習する。 ・ 音が続いているところは良いが、離れているところは、何度も練習を要することに気づく。 ・ 心が一つになっていないとうまく合わないことに気づき、自発的に何度も練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドネシアの人の演奏されているDVD ・ アンクルン
<p>9時限目(4年生) アンクルンの合奏を含む曲で、川西市連合音楽会に参加する直前に全校集会でリハーサルを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校集会で「連合音楽会に行ってきます。」と事前演奏を披露する。 ・ 全校児童にとって、初めての「3部合唱」「リコーダーの二部のカノン合奏」「アンクルンの合奏」を聞き、感動を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンクルン ・ ピアノ ・ リコーダー ・ 譜面代 ・ 楽譜
<p>10時限目(4年生) 川西市内の小学校・養護学校にもインドネシアのアンクルンの音を披露する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生が出演する「連合音楽会」は学校の代表であると自覚し、今までの練習の成果を十分に発揮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンクルン ・ ピアノ ・ リコーダー

<p>11時限目(4年生) 今までの授業を通じて感想を含め「連合音楽会」の反省プリントに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連合音楽会のビデオを鑑賞する。 ・ 他の小学校の演奏を聴いて、感想を書く。 ・ 音楽の素晴らしさを実感し、これからも頑張っていきたいと再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連音のDVD ・ 反省プリント
<p>12時限目 他の学年の音楽にも、アングルンを使った曲を導入する。卒業式にもこの楽器を使って演奏を予定し、練習に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年によって曲の内容は異なるが、アングルンは、どの学年にも愛され感謝である。 ・ 5年生は、卒業式の退場の音楽でアングルンを使い演奏を予定している。 ・ このことで、校内はもとより、保護者・来賓の方々にも、インドネシアの民族楽器アングルンが広まり、愛されることを信じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アングルン ・ ピアノ ・ アコーディオン ・ キーボード ・ 大太鼓 ・ 小太鼓 ・ トライアングル ・ シンバル 他
<p>追加1 (予定) 川西市・猪名川町の音楽幹事会時に、各小学校の音楽教師にも海外研修の報告会をし、実際にアングルンの体験をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川西市・猪名川町の音楽幹事会の会議場所が陽明小学校であるため、時間のあるときに「アングルンを使って演奏をしよう」と予定。 ・ 今回の教師海外研修の成果や、アングルンの演奏は今後も広まり、生きた国際理解教育・開発教育の手助けになる事を祈りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書 ・ アングルン ・ 楽譜
<p>追加2 (予定) 「インドネシア同好会」にて、教師海外研修の報告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師海外研修への参加に際しお世話になったため、報告会を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン ・ パワーポイント ・ 土産や写真 ・ 購入した商品

2. 授業の詳細

1時限目 「インドネシアのイメージを持つ」

目標

「音楽」には色々な国の特徴があることを伝えるときにも、インドネシアへの興味・関心を抱かせる。また、子どもたちの知識・思いなどを事前に知る。

内容

夏休みに教師海外研修でインドネシアへ行くことを伝えた。また、アンケートをすることで、児童のインドネシアに対する知識・興味・関心・疑問点などを把握することができ、児童の視点で研修することの確認をする。

アンケートの内容は次の通りである。

1. 「インドネシア」と聞いて何を想像しますか？
2. 地球のどのあたりの国だと思いますか？

3. どんな国だと思いますか？
4. インドネシアの子どもたちに何か聞きたいことがありますか？
5. あなたが日本のおみやげをプレゼントするとしたら、何をプレゼントしますか？
6. 何かインドネシアのおみやげを貰えるとしたら、何が欲しいですか？
7. 日本の代表的な音楽を聞かせてあげるとしたら、何という曲が良いでしょうか？
8. 日本との違いがあるとしたら、どこだと思いますか？

あなたが、思いつくまま、出来るだけたくさん、表に書いてみましょう。

(児童の書いた一例)

違いを探そう	日本	インドネシア
(例)言葉	日本語	インドネシア語
季節	四季	夏
服装	洋服・和服	布を巻いている
食べ物	米・肉・魚 和食・洋食	実・魚・カレー・ ナシゴレン等
住んでいるところ	マンション 木造	テント・わら・ 木・煉瓦の家
学校の様子	不自由なく 学べる 3階建て	椅子と机と黒板 だけ・遊具無い・ 1階建て
家具	電化製品で 便利	手作り品が多い・ 洗濯板 など
トイレ・風呂	水洗トイレ きれい	そのままのトイレ・ きたない
子どもの遊び	ゲーム機 サッカー・ 野球など	外で遊ぶ 鬼ごっこ ボール遊び
大人の仕事	サラリーマン 医者・病院など	商店・ゴミ集め など色々ある
国の様子	発展している。 平和	森が多そう 貧しい・平和

最後にインドネシアのお友だちに、何かメッセージをどうぞ。……

アンケートの結果

インドネシアのイメージは？

「象」「砂漠」「暑い国」「貧しい国」「肌の色が黒い」「発展途上国」等

日本からのお土産は何がいいか？

「着物」「浴衣」「げた」「切手」「キーホルダー」「ガラス細工」「風鈴」「食べ物」等

日本の音楽を紹介するなら？

「富士山」「君が代」「さんぽ」「ドレミの歌」等

どんなことを聞きたいか？

「幸せですか」「将来の夢は」「悩み事は何？」「欲しいものは何ですか？」等

インドネシアの何が知りたいか？

「食べ物」「暮らし」「服装」「学校の様子」「楽しみは何か」「ゲームはあるか」等

インドネシアのお土産に何がほしいか？

「インドネシアの土」「インドネシアの食べ物」「インドネシアの遊び」「おもちゃ」等子どもならではの意見が聞けた。

最後に、インドネシアの友達に何か一言

- ・インドネシアの人に会ってみたい。
- ・暑いと思いますが、生活頑張ってください。
- ・私は幸せです。あなたは幸せですか？
- ・勉強や遊びを頑張ってください。
- ・わたしは、友達を大切にしています。

所感

児童は行ったことのないインドネシアを想像し、必死にアンケートの中身を考えていた。テレビの影響もあり、「貧しさ・汚さ」をイメージしている児童が多いことに気づいた。

中には、心温まる言葉もあり子ども達の優しさが感じられた。

日本を伝える音楽として、国歌の「君が代」や「富士山」をあげている児童が多かった。インドネシアへの子ども達への質問には現代の子どもらしさが伺えた。

2時限目 「インドネシアを知る」

目標

インドネシアを知る。

内容

地図でインドネシアの位置を知り、風土や国の特徴(雨季と乾季)を話す。日本の約5倍の面積があり約2倍の人口であること、イスラム教の風習を伝え、イスラム教徒が約90%を占めることを伝える。

ジャワ島中部地震の話伝えた。

建物・道路・乗りもの・建物・人物・服装・等の写真を見せてインドネシアを実感させた。

事前に入手した民族楽器「アングルン」を紹介し、購入した楽器も見せる。

国旗の土産を見せて「日本」の国旗と色が同色で親近感を持っていた。



キーホルダーに入っている本物の昆虫を見て、感動する児童の姿を見た。



インドネシアの紙幣を見せて比較し、インドネシアの紙幣・硬貨を見せて興味を持たせる。



インドネシアの街の風景をクイズ形式にして紹介



珍しい昆虫に感動



研修に行った日から順にパワーポイントで紹介。インドネシアの「建物」「乗り物」「食べ物」「トイレ」「学校の様子」などクイズ形式を盛り込み、興味深く紹介し説明する。

「シーラカンス」を写真クイズ形式で紹介した。一つ一つのパーツを見せて何かを当てる。



イスラム教の衣装・布・ジルバブ等を説明。買ってきたバティック柄の洋服商品や、ジルバブをかぶって見せて、披露。



価格タグを見せて、日本との物価との違いを理解させる。

代表的な食事「ナシゴレン」「ミーゴレン」
料理を紹介



ナシゴレン



ミーゴレン

3時限目 「インドネシアを知る」

目標

インドネシアと日本の交流を紹介

内容

- ・写真のパワーポイントを見せながら説明。
- ・訪問地までの自分自身の意気込みや、インドネシアとの交流を見せて「音楽は万国共通」と言うことを実際に、体験発表する。

ゲシアン村での交流の様子を紹介



日本の雅楽のひとつ「七力」の紹介



日本の文化を披露

- ・「ドレミの歌」の振り付けて歌う
- ・リコーダーでの2部合奏の演奏
- ・「さくら」のソプラノ独唱
- ・「炭坑節」の盆踊り
- ・お習字・竹とんぼ・千代紙
- ・だるま落とし
- ・日本の遊びや文化を紹介

ホームステイでの日本紹介
ゆかたの着付け お茶のお点前



炭坑節の踊り披露



日本の歌を紹介



ガムラン体験



珍しい楽器



レストランでガムラン音楽の一コマ体験させて貰った。歌は女性が担当



ワテス国立第一中学校での音楽の授業見学



エレキギター練習



ビートルズの曲を合唱



バンドを組んで演奏し、歌う音楽の授業
ドラムのセットを演奏する男子生徒の笑顔



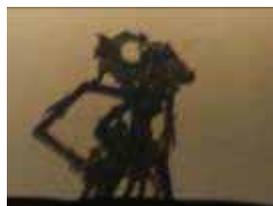
HIMMATA(現地NGO)が支援する学校での交流

歌手になる「夢」を歌声に



ギターを弾いて楽しむ青年

ギター演奏



影絵をはじめて体験した。

ここでもガムラン音楽が演奏されていた。



大きなドラの響く音に驚いた。
影絵のBGMにもガムラン音楽

所感

私が音楽の教師ということで、数ある交流の中でも「音楽」を中心に写真で見に行くことにした。私がクラス担任を持っていたら、この他に「食事」・「建物」・「暮らし」・「宗教」・「道路事情」等々、多くの比較できることがあげられると実感した。

4～5時限目 「インドネシアを知る ～ 」

目標

様々な写真の中から、インドネシアでの貴重な体験をパワーポイントで紹介することで、視覚的に、同じ体験を共有していく。今後の国際理解ができる人間に育てる。様々な問題を実感し、考える感性を育てる。

内容

- ・写真や土産品を見せながら、現地の様子などを説明しJICAの活躍を説明する。
- ・ストリートチルドレン紹介



授産施設の活動を説明する。



お土産や購入した写真立てを見せる。

世界遺産であるポロブトゥール遺跡を紹介する。



世界遺産であるプランバナン遺跡を紹介する。



バティックの紹介



作成法を説明



食品にある「ハラルマーク」の説明をする。
お菓子のどこについているか調べる。
日本の企業がインドネシアにも輸出し、インドネシア工場で生産している事を伝える。



グリコのお菓子があり、日本とほぼ同じ価格



マクドナルドのバイク



ホカホカ弁当

所感

知らなかったインドネシアのストリートチルドレンを理解するのは難しい様子だった。

世界遺産の風景や民族衣装などは良い知識になったと思う。

ハラルマークは、日本に無いマークだが、自分たちで探し当てることができた。

日本にあるグリコのお菓子やマクドナルド、ホカホカ弁当などが、インドネシアにもあると知り、歓声が上がった。

JICAの活躍を紹介した。将来国際協力を志す児童が何人かいてくれることを祈るばかりである。

6時限目 「インドネシアを楽器で知る」

目標

「アングルン」を使用してインドネシアの音楽を体験しよう。

内容

インドネシアの曲が入ったCDを鑑賞。

まず、耳から感じるため、インドネシアの曲が入ったCDを鑑賞。

インドネシアで購入した小物打楽器を使用し、リズム遊びをしながら音楽に親しむ。



(購入した楽器で音当てゲームをして楽しむ)

- ・アングルンの楽器を見せて音を聴かせる。
- ・アングルンの材料・つくり・音のなぞ・演奏法・楽譜の読み方 等、特徴を理解する。
- ・低音は長い竹、高音は短い竹でできている。
- ・実際にアングルンを手を持って、「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」「シ」「ド」の音を順に出し、今までに触ったことのない楽器を体験す。
- ・ピアノに合わせて、演奏し音を楽しむ。
- ・左手で持って右手で細かく左右に振るといふ、演奏法を身につける。
- ・良い音が鳴ると、気持ちが良いと実感する。

所感

当初、見たことも触ったこともない楽器に戸惑っていた児童も、音が出せるようになると笑顔になった。

また、自分の音の順番になるとしっかり演奏するが、他の児童が演奏をしている時は見入ってしまい、自分の番が来てもあわてて間違える児童が多かった。そうすると音が抜けてしまうので責任重大だということを経験できた。

7時限目

目標

インドネシアの民族楽「アングルン」の音

を楽しむ。

内容

- ・「キラキラ星」を階名唱し、アングルンで演奏する。(クラス全体で)
- ・楽譜を「数字譜」で歌い1はド、2はレ、3はミ、4はファ、5はソ、6はラ、7はシ、8はドを確認。「ドレミ」でも歌いアングルン演奏する。
- ・実際に演奏を体験し音楽の楽しさを実感し、班に分かれて演奏する。

「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」の音を班ごとに演奏する音を4人～5人と決める。

一曲終わるごとに、音の移動をして、全員が、「ド」～「ラ」までを体験する。

アングルンは長い楽器(低音)～短い楽器(高音)までであるので、楽器の特徴をよくとらえて、どう演奏したら美しい音でとぎれないで演奏できるかを体験し、考えながら演奏する。

演奏した感想を伝えあい意見を共有しあう。



所感

前回の授業では、初めてのアングルンに戸惑っている児童も多かったが、2時間目ともなると、演奏のコツを心得てきた。

おなじみの「きらきら星」の演奏は、みんなが知っていたので、取り組みやすかった。

全員に「ド」～「ラ」を体験できたと喜んでいた児童が多くて、指導者の私も納得した。

8時限目

目標

インドネシアの民族楽「アングルン」を使って、曲を演奏する。

内容

インドネシアの有名な曲「ブンガワンソロ」等が入ったDVDを鑑賞させて、曲作りや演奏の美しさを実感させる。

「ほたるこい」の3部合唱曲をアングルン

で練習する。

音が続いているところ(ミ ファ ソなど)は良いが、離れているところ(ラ ミ ソなど)は、何度も練習を要することに気づく。

心が一つになっていないとうまく合わないことに気づき、何度も練習する。

所感

4年生は「川西市連合音楽会」に演奏するので、皆緊張しながら取り組めた。また、昼休みには、自主的に集まって練習する児童が増えてきた。しかし、中には、昼休みは外で体を動かして遊びたいという、児童もおり練習に来ない児童が出てきた。そうなると、その音だけが、無くなってしまう。どう指導したものかと考えたが、連音のことを思うと、今しか練習できないと促すと、毎日参加する児童が揃い、うれしいことに日増しに音が美しくそろってきた。それを実感したのかその楽しさ、やりがいを少しずつ体験したようだ。

9時限目(4年生)

目標

川西市連合音楽会に参加する直前なので、全校集会でリハーサルを行い本番に備える。

内容

- ・全校集会で「連合音楽会に行ってきます」と
- ・事前演奏を披露する。
- ・全校児童にとって、初めての「3部合唱」「リコーダーの二部のカノン合奏」「アングルンの合奏」を聞き、感動を味わう。

所感

他の学年はアングルンの演奏が初めてなので、不思議そうに鑑賞していた。

全校生にインドネシアのアングルンの楽器を知ってもらう良い機会でもあった。

今後、全校の音楽の授業に組みこんでいく導入ができた。皆も楽しみができたと思った。

10時限目(4年生)

目標

川西市連合音楽会でアングルンを使用した曲を演奏し、川西市内の小学校・養護学校にもインドネシアの音を披露する。

内容

本校の代表として出演する4年生にとって、連合音楽会は一生に一度の思い出になる。

各学校関係者・教育委員会の方々からも好評を頂いた。

アンクルンの楽器がとても、心が落ち着き会場にも響き渡って良かった。



所感

楽器の運搬にも気を使った。途中で破損したりしないようにと引率の教師に車で運んでもらった。また、アンクルンがわからなくなる様に、使用する楽器に児童の名前を書いたビニールテープを貼った。曲の途中でアンクルンを床において、リコーダーに持ちかえたり、合唱する隊形に並ぶ時も「アンクルンの音が出ないように」「踏みつけないように」と大切に扱った。

無事に終わることができて、児童も教師も満足できる充実した一日だった。

11時限目(4年生)

目標

今までの授業を通じて感じたことや思ったことを含め連合音楽会の反省プリントに記入して今までの振り返りをする。

内容

- ・連合音楽会のビデオを鑑賞する。
- ・その時の事が思い出され、今までの努力や感動・緊張・他の小学校の演奏を聴いて、感想を書いたりする。
- ・「音楽の素晴らしさ」を実感し、これからも頑張っていきたいと再確認する。

所感

連合音楽会のDVDを、真剣に鑑賞した。「連音を振り返って」の感想文には、「アンクルンや、リコーダー、3部合唱の音をあわせるのが難しかったし、練習も大変だったけれど、成功してよかった」「今後がんばっていきたい。」という意見が多かった。

貴重な体験が出来たことに感謝。

また、他の学校や教育委員会の先生方も、アンクルンの音も良かったと褒めていただき、インドネシアに行き、児童に伝え、学校にも伝え、この度川西市内にも伝わったことで、「国際理解教育」のきっかけになったのではないかと思う。

12時限目(全校児童)

目標

他の学年の音楽にも、アンクルンを使った曲を導入する。卒業式にもこの楽器を使って演奏を予定し、練習に取り組む。

「音楽クラブ」もアンクルンの2部合奏に挑戦する。

内容

- ・学年によって曲の内容は異なるが、アンクルンは、どの学年にも愛され、インドネシアの国に感謝であった。
- ・今年結成の「音楽クラブ」でも、アンクルンの合奏の取り組みが始まり、クラブ紹介の時には合奏をして披露した。



「音楽クラブ紹介」での演奏

- ・5年生は、卒業式の退場の音楽でアングルンを使い演奏を予定している。このことで、校内はもとより、保護者・来賓の方々にも、インドネシアの民族楽器アングルンが広まり、愛されることを信じている。

児童の感想

児童は、演奏した感想を素直に書いていた。その中には次のような内容があった。

- ・はじめ、見たときは「どうやって演奏するのか？」と疑問に思いましたが、やってみると、とっても楽しくて、今までよりも音楽が好きになりました。
- ・はじめ、音がうまく鳴らなかったけれど、何回か練習をしていると、上手になるようになりました。これからも、もっともっと練習してうまくなりたいです。
- ・アングルンの音を聞いていると、なぜだか心が和みます。いい音ですね。嫌なことも吹っ飛んでしまいました。
- ・竹で出来ている楽器が、こんなに良い音がするなんて信じられませんでした。
- ・低い音は竹が長く、高い音は竹が短いのですね。いろいろな楽器を演奏できました。とても楽しかったです。
- ・小さい楽器は、演奏しやすかったけれど、大きな楽器は音がうまく出ませんでした。どうやったら、いい音が出るか教えてください。

児童なりに、体験したことで、色々なことを考えて演奏していたことが分かった。

珍しい楽器なので、どんな印象だったか、よく分かってよかった。

ほとんどの児童が「アングルンの演奏をしたい」と感想を述べていたので、うれしく思った。

3. 成果と課題

これまでインドネシアについて学習する機会は皆無であり、生徒の大半は「暑い国」、「アジアの開発途上国」くらいのイメージしか持たなかったが、インドネシアの伸びゆく面や、逆に抱え続ける課題などを伝えられたと思う。

授業で諸外国の実情を取り上げる場合、実際に自分が足を運び、目で見て、現地の方々から話を聞くということが、いかに内容の濃

いものになるかと実感した。

そのことで、授業の内容も深くなり、その思いが音楽にも表現されるのではないかと思う。

教材の扱い方やこちらの話し方によっては、インドネシアのみならず、開発途上国に対する誤った知識、偏見を生み出すことにもなりかねないので、児童に正確な情報を与え、問題解決の姿勢を養い、広い視野に立った国際感覚の豊かな児童を育てることで、教師海外研修に参加した意義もあろうかと思う。

音楽といった専科の授業なので、比較的授業が、やりやすかった。しかし、伝えたいことが多すぎて音楽以外のことも、随分伝えたいと思うが、今後の授業を進める上できっと、参考になり充実したものになると信じたい。

この度の研修から、言葉が通じない国でも音楽を通じてコミュニケーションが行えることを体験をした。また、インドネシアで日本の音楽を披露したり、一緒に「ドレミの歌」を歌ったりすることで、初めて会った人でも心を開くことが、できると知った。ホームステイでもインドネシア語が通じなくて困ったが、リコーダーを持参して「カエルの合唱」の曲と一緒に吹いたり、カノンでずれて演奏することで笑顔がでてきて、その場が和んだ。日本の文化を伝えるために、盆踊りを踊ったり、雅楽の七力を吹いたりした。異文化理解を実感できた。以上のことでも、「音楽は万国共通だ」ということを実感した。

今年は音楽会の年。この経験を生かして、今後の「音楽教育」、「国際理解教育」、「開発教育」に少しでも貢献できたらと強く思う。

今年は、自分自身が初めて海外研修に行かせていただいたことで、伝達事項やアングルンの体験授業もあり、3学期の指導内容を随分変更した。暖かく見守ってくださった職場の先生方へ心から感謝したい。また、海外研修の為に音楽幹事会の出席ができない日も多々あったが、皆さんで支援して下さい、音楽幹事の先生方にも心より感謝いたします。

末筆になりましたが、インドネシアからアングルンを購入して下さったインドネシア同好会の澤村さん、アングルンを快く貸して下さったアングルンの第一人者の立田先生に、この場を借りて御礼申し上げます。

最後に、この機会を与えて下さったJICA兵庫に心から感謝します。ありがとうございました。